

「豊堤」便り



発行 五ヶ瀬川の豊堤を守る会

編集 西本師子

住所 延岡市北町1-14

電話 0982-32-2226

FAX-0982-32-2229

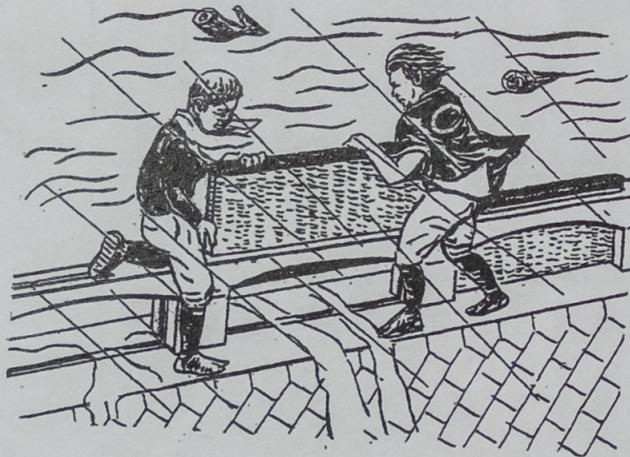
豊堤ものがたり展

虎屋ギャラリー

「豊で街を守る」と題した冊子発行を記念して、「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」(以下守る会)では、2004年6月19日から7月2日まで、延岡市幸町の日向の国虎屋本店ギャラリーで「豊堤ものがたり展」を開催しました。

内容は、豊堤の仕組みを平面図や写真、パネルで紹介。また、構築された時代の写真や貴重な築堤落成時の工事現場の写真などを展示。何処に現存しているかは、設置場所の五ヶ瀬川と大瀬川を示した川中地域の大型写真と地図で示しました。ミニサイズの豊の模型が人気でした。台風時、豊を差し込んでいる臨場感あふれる彩色をほどこした切り絵や写真で他市の豊堤(2箇所)紹介も。

延岡河川国道事務所と守る会発行の冊子「豊で街を守る」や資料の無料配布など、皆さんに



喜んでいただきました。会場には、述べ300人が訪れ、熱心に展示パネルや模型に見入っていました。

まお、寄せられた感想文は、最後のページに掲載しています。紙面の都合で掲載できなかった分は、次回号で紹介します。

陰の支援あつてこそ

協力してくださった皆さんは次の通りです。

国土交通省延岡河川国道事務所、虎屋、上田耕市社長、上田明美専務、とうだ工房、中島英陸氏(切り絵)、岩田豊店、池紙函店、虎屋の皆さん。

コラム
一木一草

意外なほどの皆さんの反応に驚いた「豊堤ものがたり展」でした。知らなかった人が多く、むしろ、豊堤はみんなの幼かりし日の思い出につながっていたのです。なにしろ、延岡の街の真ん中を流れる五ヶ瀬川に沿って980メートルのフリーズがあるので、川とともに過した延岡ッ子には、友達のようなもの。虎屋ギャラリーの専属で宮崎を代表する彫刻家、奥村羊一さんは「知らなかった。豊を差し込む底のところは溝になっていますが、何も知らない僕らは、ここに宝ものを隠したり、隙間(豊を入れるために空いている)に棒を立てて、戦争ごっこ陣地のしるしにしたり。よく遊んだものです」と。夢中で遊ぶ姿が浮かびます。今は機械相手にしか遊べない子、塾が忙しい子ばかり。子供が川風に吹かれて遊ぶ時代は遠くに過ぎ去ったのでしょうか。N記

畳現存地を示す地図のパネル



畳ものがたり展写真集

写真や模型で立体的に
アメリカの視察のみなさまに好評

切り絵とミニ畳を使った模型



熱心に眺める訪れた人たち



解説する西本



説明を聞くアメリカの皆さん



入会者紹介 (敬称略 入会者順) 西本師子 (北町) 黒木民雄 (北町) 岡田光直 (北町) 北町婦人部 北町区 上田耕一 (幸町) 芝弘光 (西廻町) 能村義廣 (東京) 塩月真 (平原町) 木原真理子 (南一ヶ岡) 久澄サツキ (樫山町) 甲斐歌子 (野地町) 斎藤宗男 (土々呂町) 竹内一代 (松山町) 縫瑛之 (方財町) 松島恵子 (中島町) 古橋久留美 (中島町) 中村清昭 (南一ヶ岡) 牛ノ濱栞風 (北一ヶ岡) 中島英陸 (南一ヶ岡) 忍賀弘子 (出北) 吉田美江子 (出北) 馬場登喜子 (稲場崎町) 志垣美恵子 (北一ヶ岡) 金丸記代子 (出北) 樫村セイ子 (別府町) 中村雄一 (出北) 次ページつづく

三福寺に鎮座します阿弥陀來座像

濡れ仏と西南戦争

命に代えて意思を貫いた男の物語

益田源七と濡れ仏

昔、元新町（柳沢町下手）と呼んでいた川原は、内藤氏時代に罪人の処刑所でした。



明治10年以降、江戸時代の名残を留める時代に、その処刑場に、大きな坐像の石仏が建立されました。

阿弥陀如来物坐像と申します。しかし、明治30年頃、堤防改修工事のために、北町の九品山三福寺本堂前（向かって左）に移されました。

今も静かに笑みをたたえて、側のわかば幼稚園の子供達の姿を見守つ

てくださっています。

この石仏は「濡れ仏」と申しますが、建立の由来を聞けば、驚くことに時代をへだてた西南戦争へと繋がるのです。

明治10年頃、延岡は鹿児島に合併して、鹿児島県でした。ですから、薩摩の西南戦争がはじまると、延岡軍は旧延岡藩の家老の命じるままに薩摩に見方し政府軍を敵に回すことになったのです。

西南戦争とは、明治10年、旧薩摩藩の西郷隆盛を擁立して、薩摩が政府に戦いを挑んだものです。延岡はまだ、士族の気風が残っていただけに、旧家老の意見は絶対だったのです。

ところが、ただ一人、反対を唱えた人物がいました。「なぜ、負けるかわかっているのに、加勢を（薩摩軍にするのか）と言い切ったのです。周囲が薩摩の顔色を伺いながら、言い含め、説得しようとするのですが「政府に逆らうは愚かしい」と言っ

て一歩も譲らないのです。

この人は熊本出身の益田源七。当時、延岡に開校していた亮天舎の教師でした。薩摩軍が延岡に入ってくるにおよんで、延岡軍は非常に困りました。殺気をおびた薩摩軍を見て、延岡藩はなんとか源七を押さえ込もうとします。とうとう、最後には元新町の処刑場で首を切つてしま

います。

源七は命に代えて、自分の意志を貫き通したのです。享年59歳。

その後、門人の手で源七の霊を慰めるために、石仏が建立されました。それが濡れ仏なのです。多くの人々の手向ける供養の水で、乾く間もなかったために、そう呼ばれるようになったと伝えられています。

今も柔和な顔で微笑んでいらっしやる濡れ仏



この話は、郷土史家、松田仙峽氏が48年に研究、執筆された「歴史散歩」を参考にいたしました。写真は平成16年3月に撮影したものです。

五ヶ瀬川の畳堤を守る会に入会について

畳堤は、延岡の街の中に、現存している、昔の治水施設ですが、畳を使う奇想天外な発想には、どこか心の豊かさを感じます。

守る会は、こうした先人の知恵に学び、郷土愛や市民が手をつなぐ心を大切にしよう、と、発足したものです。

入会の場合

入会費¥10000円（年会費含む）

支援してくださる方

援助支援金¥10000円

いずれかをご希望の方は、郵便振替用紙を送付いたします。

連絡

五ヶ瀬川の「畳堤」を守る会

会長 西本師子

電話 0982-32226

住所 延岡市北町1の14

皆様から寄せられました声のページ

2週間中の展示会の感想文を寄せていただきましたので、掲載いたします。

格調高い装丁、入念な調査、聞き取りによる豊富な資料、新聞記事など、全てに著作の情熱を感じます。
官と民との作業で見事な記録作品が完成しました。
故郷の街は、自分で守るといふ先人の叡智が鮮明に甦る、貴重な資料で御座います。先代に語りつぎます。ご苦労さまでした。厚くお礼申し上げます。

木戸貞太さん（緑ヶ丘）

宮崎市在住の矢野一弥さんが、ぜひ、さがして送って欲しいと頼まれ、郷土史研究家であり、恩師である矢野先生のために国土交通省でいただき、送りました。
延岡人の素晴らしい智恵と川を思う美的センスに胸打たれました。誇りに思います。（延岡生まれとして）

国友基子さん（大貫町）

郷土の町は先人の知恵で守られていた。具体的な資料で感じた事です。豊堤は歴史的な価値と、今でも防水災に役立つ機能を有する大変貴重な物だと思います。どう、保存管理するか、行政の協議も必要です。延岡市内のみならず、市外、県外に広めるならば、観光客も増え、延岡のよさが、知られるのではないでしようか。

白石武仁さん（塩浜町）

延岡市の一隅の事実なる物語として、凄いいことだと思ふ。現代に当てはめて考える時、水の歯止めとなる第一歩はなん

だろうか、と考えたらどうだろう。行政に先だち庶民が手を打つーその、昔の手順をまずは、行政の仕事として欲しいと思わせるものがあつた。

白鳥ゆり（土々呂町）

とても良い企画ですので、子供達にも是非知ってもらいたいと思います。が、なかなか接する機会を作ることは難しいと思いますので、今回のような、模型があるなら、各小中学校へ週替わりに展示させてもらったらいかがでしょう。実物を見ると、子供達も関心を持つことと思います。小学校の先生は社会の授業で取り上げられ、5、6年では、宮崎県か全国になりますので、豊堤のある岐阜県の長良川のことなど、比較されれば、打ってつけです。総合学習にも向いていますよ。

齋藤由桂里さん（土々呂町）

恥ずかしながら、今回、はじめに豊堤の存在を知りました。多忙で新聞、テレビを見る時間がなかなか無いというのは言い訳になりますが、幼少の頃から、河川敷などによく遊びにいったので、見たことはあります。

前ページより（入会者紹介 敬称略 入会順）

奴田原君枝（鶴ヶ丘町） 田丸真（大瀬町） 山本郁男（西階町） 日吉繁雄（宮崎市）

しかし、増水時畳をはめ込み、越水を防ぐ仕組みに成っているとは知りませんでした。現在の畳をはめ込み活用しているわけではありませんが、その景観は延岡の街に同化し、展示されている写真にもあるように、非常に感慨深いものがあります。50年後、100年後の延岡にも絶対、豊堤の姿が見られることを切に希望します。

平林宏一さん（大貫町）

（次号につづく）